

社会福祉法人ユーカリ福祉会

平成29年度

## 市川南保育園事業計画



社会福祉法人ユーカリ福祉会

市川市立市川南保育園

〒272-0033 千葉県市川市市川南4-1-15

電話 047-324-1155

FAX 047-324-1139

E-mail [ichikawam\\_encho@clock.ocn.ne.jp](mailto:ichikawam_encho@clock.ocn.ne.jp)

<http://www.ichikawaminamihoikuen.jp/>

## 法人の基本理念

社会福祉法人ユーカリ福祉会が運営する保育園は、児童憲章の精神を基本理念とし、子どもの人権と個性を尊重し、自然を愛し、科学と芸術を尊び、道徳的心情が培われる保育を推進していく。子どもたちを、個性と能力に応じて教育し、社会の一員としての責任を自主的に果たすように導き、また、虐待や酷使、放任、その他不当な扱いから守り、愛とまことによって人類の平和と文化に貢献する子どもたちを育て導くために、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福のために、すべての叡智を結集し、保育として具現化することを法人の使命とする。

ユーカリ福祉会は、創設以来、保護者や行政と力を合わせながら地域の子育ての良きパートナーとして、保育園の様々な機能を最大限に生かし多様なニーズに応えてきた。今後も“子どもの最善の利益”のために、児童の福祉を積極的に推進し、合わせて地域における家族支援も行っていく。児童の福祉を積極的に推進するために、職員は豊かな愛情を持って保育にあたり、児童の処遇向上のために知恵と力を出し合い、また知識や技術の向上に努め、地域の子育て支援のため、常に社会性と良識を研鑽するものである。

## 園の基本理念・方針

平成27年度に市川市より指定管理を受け、2年経過しました。平成29年度は3年目となります。保護者との信頼関係を築き、引き続き安定した保育が進められるよう、市川市や保護者と連携を図り継続的に運営ができるように話し合っていきます。保育環境や内容についても職員研修や、学習会で学びあいより良い保育を目指し向上していけるよう努力していきます。地域交流や、園見学などを行い地域に根付いた保育園となり、子育て中の親子の悩みや育ちの支援ができるような環境にしていきます。平成29年1月よりスタートした病後児保育では、在園児だけでなく地域の子どもも受け入れ、病後期間を安心して過ごせる保育室にしていきます。地域や関係機関と連携を図り、市川南保育園の環境を整えていきます。給食についてはアレルギーを持つ児童が他の子どもたちとできる限り同じ食事がとれるよう小麦・乳・卵のない献立にし、給食室・看護師・保育士で連携を取り子どもたちが安心して食べられる環境、献立にしていきます。

## 保育課程

### 園の保育理念

児童憲章の精神を基本理念として、子どもの人権と個性を尊重し自然を愛し、科学と芸術を尊び、道徳的心情が培われる保育を推進する。

### 保育方針

- ・保護者や行政と力を合わせながら、地域の子育ての良きパートナーとして保育園の機能を生かし、多様なニーズに答え、豊かな愛情をもって保育にあたる。
- ・子どもの最善の利益の為に児童福祉の向上に努める

### 園目標

「一人ひとりが輝く子」

- ・生きる力の基礎を養い、根気強さを育てる
- ・友だちと関わり助け合う気持ちを大切にする
- ・表現することを喜ぶと共に感動出来る心を育てる
- ・人を信頼し思いやりのある心を育てる

# クラス別保育内容

0 歳児	
発達の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生後 4 ヶ月までに首がすわり、手足の動きが活発になり、その後寝返り、腹這いなどの全身の動きをするようになり、座る、立つ、歩くといった著しい運動機能の発達をするとともに、手先を使えるようになる。</li> <li>・保育士との情緒的な絆により、自分の意志や欲求を伝え、それが満たされることで情緒が安定し、少しずつ言葉が出る。</li> <li>・母乳やミルクなどの乳汁栄養から、成長に合わせて離乳食にうつり、なめらかにすり潰した形態食から、徐々に形のある形態を食べられるようになる。</li> </ul>
ね ら	<p>養</p> <p>《生命の保持》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健的で、安全な環境をつくり、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求が満たされ、健康で快適に生活できるようにする。</li> <li>・家庭と連携し、一人一人の子どもの生活や発達に応じて、生活リズムをつくっていく。</li> </ul> <p>《情緒の安定》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる保育士等に気持ちを受け止められ、自分の気持ちを表現し、自己を十分に発揮する。</li> <li>・食事、睡眠、排泄、着脱等について、育児担当制をとることで、保育士との信頼関係を築き、安心して過ごす。</li> </ul>
	<p>護</p> <p>《心 情》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の周りのものに興味関心をもち、探索活動を十分に楽しみ、充実感を味わう。</li> </ul> <p>《意 欲》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児担当制、少人数制により安定した一日を過ごすことで、生活の見通し、着脱、食事、排泄等、身の周りのことを自分でしようとする。</li> </ul> <p>《態 度》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く、見る、触る等の経験を通して、五感や手指の機能を育み、主体的に探索活動や全身を使った遊びを楽しみ、周囲への関心も広げていく。</li> </ul>
	<p>教</p> <p>《心 情》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の周りのものに興味関心をもち、探索活動を十分に楽しみ、充実感を味わう。</li> </ul> <p>《意 欲》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児担当制、少人数制により安定した一日を過ごすことで、生活の見通し、着脱、食事、排泄等、身の周りのことを自分でしようとする。</li> </ul> <p>《態 度》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く、見る、触る等の経験を通して、五感や手指の機能を育み、主体的に探索活動や全身を使った遊びを楽しみ、周囲への関心も広げていく。</li> </ul>
い 育	<p>健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健的で安全な環境の中、健康な生活リズムで快適に過ごす。</li> <li>・離乳食を進めていく中で、様々な食材や味に慣れ、楽しい雰囲気の中で、喜んで食事をする。</li> <li>・姿勢を変える、移動するなど発達に応じた活動を十分にを行い、手や指先を使う遊びも楽しむ。</li> <li>・育児担当制を取り一人一人に合わせた関わりで、生理的欲求が満たされ、安心して生活ができる。</li> </ul>
	<p>康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の保育者等に気持ちを受け止められ、安心して自分の気持ちを表現する。</li> <li>・育児担当制により、保育者との信頼関係を築き、少しずつ他児への関心を持つ。</li> <li>・一つ一つの援助の仕方が統一されていることで、生活の流れに見通しを持って、身の周りのことを自分でしようとする。</li> <li>・自分の欲求を表現し受け止められることで、満足感を味わう中、大人とのやりとりを楽しむ。</li> <li>・わらべうたを通して、保育士との一対一の関わりの中で、様々な感情が育っていく。</li> </ul>
	<p>人 間 関 係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の保育者等に気持ちを受け止められ、安心して自分の気持ちを表現する。</li> <li>・育児担当制により、保育者との信頼関係を築き、少しずつ他児への関心を持つ。</li> <li>・一つ一つの援助の仕方が統一されていることで、生活の流れに見通しを持って、身の周りのことを自分でしようとする。</li> <li>・自分の欲求を表現し受け止められることで、満足感を味わう中、大人とのやりとりを楽しむ。</li> <li>・わらべうたを通して、保育士との一対一の関わりの中で、様々な感情が育っていく。</li> </ul>
	<p>環 境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる人的・物的環境のもと、聞く、見る、触れるなどの感覚を心地よく感じ、楽しく経験を重ねる。</li> <li>・動植物などを見たり、触れたりすることで、季節の変化を感じたり、五感を育む。</li> <li>・作物の様子を見たり、触れたり、季節の野菜や木の実を味わったり、食べ物に関心を持つ。</li> <li>・大人に見守られる中、身近な物に興味を示し、自ら触れてみようという意欲を持つ。</li> </ul>
	<p>内 容</p> <p>言 葉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者等との一対一の関わりから、周りの興味関心が広がり、様々な経験を通し情緒が育まれ、表情も豊かになり、喃語や片言が出てくる。</li> <li>・泣くことでの要求の表現から、少しずつ喃語やしぐさで、保育士に要求を伝えてくる。</li> <li>・喃語や片言をしっかりと受け止めてもらい、発語や保育者等とのやりとりを楽しむ。</li> </ul>
<p>表 現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうたを通して、大人との一対一の関わりの中で、様々な感情が育ち表現することを楽しむ。</li> <li>・砂、水、土、紙等、様々な自然物や素材に触れ、五感を育む。</li> <li>・共感してもらい心地よさを感じる中、自分の欲求を態度やしぐさで伝える。</li> <li>・大人のすることに興味を持ち、真似することを楽しむ。</li> </ul>	
保育の実施上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で活動しやすい環境を整え、子どもの身の回りの環境や衣服、寝具、玩具等の点検を常時行い、事故に対して細心の注意を払う。睡眠中もチェックを行い、SIDSの予防をしていく。</li> <li>・季節により、湿度、温度などの環境・保健に十分に注意し、衣類の調節や換気に気をつける。</li> <li>・家庭との連携を密にし、子どもの生活を 24 時間で捉え、朝の視診や家庭からの連絡帳、引き継ぎ等で、子どもの健康状態を把握する。場合により、看護師・主任・園長と連絡をとり速やかに対応をする。</li> <li>・無理のない範囲で離乳を進めていき、個々の状態に合わせて、様々な食品に慣れていくようにする。</li> <li>・一つ一つの段階に合わせた運動や手指を使う遊びを促すと共に、子どもの自発的な活動を大切にしながら、時に保育者がやってみせるなど、一緒に楽しんで遊ぶようにする。</li> <li>・身体発育や精神、運動機能の発達の個人差に十分に配慮し、一人一人が自らやってみようとする意欲、自己を発揮できることを大事にする。</li> </ul>

1 歳児	
発達の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩き始め、手を使い、言葉話すようになり、身近な人や物に自発的に働きかけたり、探索活動も盛んになる。</li> <li>・玩具等を実物に見立てる等、象徴機能が発達し、人や物との関わりが強まる。運動の種類も豊かになり、自発性も高まる。</li> <li>・大人の言うことがわかるようになり、指差し、身振り、片言等を盛んに使うようになって、二語文を話し始める。</li> <li>・物をやりとりしたり、取り合ったりする姿が見られる。</li> <li>・保育者や他の子どもと一緒にいることを喜ぶ一方、嫉妬心等の情緒も表れてくる。</li> </ul>
ね	養 《生命の保持》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。</li> <li>・一人一人の子どもの生理的欲求や甘え等の依存欲求を満たす。</li> </ul> 《情緒の安定》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のこどもが、安心して自分の気持ちを伝えられ、保護者や保育士等と信頼関係を築く。</li> <li>・一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表現することができる。</li> </ul>
	護 《心 情》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の周りの物に興味関心を持ち、探索活動を十分に楽しみ、充実感を味わう。</li> </ul> 《意 欲》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる保育士等との関係の下で、食事、排泄等について、自分でしようとする。</li> <li>・保育士等の話しかけや、発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ。</li> <li>・様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べることができる。</li> </ul> 《態 度》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本、玩具等に興味をもって、それらを使った遊びを楽しむ。</li> <li>・身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。</li> </ul>
ら	教 《心 情》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の周りの物に興味関心を持ち、探索活動を十分に楽しみ、充実感を味わう。</li> </ul> 《意 欲》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる保育士等との関係の下で、食事、排泄等について、自分でしようとする。</li> <li>・保育士等の話しかけや、発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ。</li> <li>・様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べることができる。</li> </ul> 《態 度》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本、玩具等に興味をもって、それらを使った遊びを楽しむ。</li> <li>・身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。</li> </ul>
	育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい雰囲気の中で、食事やおやつが食べられる。スプーンを使って一人で食べようとする。</li> <li>・オムツが汚れたら取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。</li> <li>・促されて便器等での排泄に慣れていく。保育士の言葉かけや援助で、衣服の着脱に興味を持つようになる。</li> </ul>
い	健 <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい雰囲気の中で、食事やおやつが食べられる。スプーンを使って一人で食べようとする。</li> <li>・オムツが汚れたら取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。</li> <li>・促されて便器等での排泄に慣れていく。保育士の言葉かけや援助で、衣服の着脱に興味を持つようになる。</li> </ul>
	康 <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児担当制をとり、一人一人の子どもの生活リズムで、安心して、午睡や休息をする。</li> </ul>
験	人 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士と一対一でわらべうたを楽しんだり、集団で遊んだりする。</li> <li>・保育士に見守られ、外遊び、一人遊びを十分に楽しむ。</li> <li>・安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や他の子どもに関心を持ち、模倣して遊ぶ等親しみを持って自ら関わる。</li> <li>・毎日同じ日課で過ごすことで、先を見通したり、少しだけ待ったりができるようになる。</li> </ul>
	関 <ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩に行くことで、四季の移り変わりを感じ、体を動かすことの楽しさを知る。</li> <li>・園で飼っているいきものにも、触れ合う機会を持つ。</li> <li>・無理のない範囲で園の行事にも参加し、見たり、触れたり、食したりすることで五感が育まれ、社会性が広がる。</li> <li>・プランター栽培の作物の水やりをしたり、実をつける様子を見たり、食する楽しみをふくらませる。</li> </ul>
内	環 <ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩に行くことで、四季の移り変わりを感じ、体を動かすことの楽しさを知る。</li> <li>・園で飼っているいきものにも、触れ合う機会を持つ。</li> <li>・無理のない範囲で園の行事にも参加し、見たり、触れたり、食したりすることで五感が育まれ、社会性が広がる。</li> <li>・プランター栽培の作物の水やりをしたり、実をつける様子を見たり、食する楽しみをふくらませる。</li> </ul>
	境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指差しや身振り等で、自分の気持ちを表す。</li> <li>・経験の中で得た簡単な言葉を使って、自分の気持ちを表そうとする。</li> <li>・保育士等の応答的な関わりによって、片言・一語文・二語文がいえるようになる。</li> </ul>
容	言 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指差しや身振り等で、自分の気持ちを表す。</li> <li>・経験の中で得た簡単な言葉を使って、自分の気持ちを表そうとする。</li> <li>・保育士等の応答的な関わりによって、片言・一語文・二語文がいえるようになる。</li> </ul>
	葉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見たり、好きな玩具や遊具、自然物に自分から関わり十分に遊ぶ。</li> <li>・自分の要求を言葉やしぐさで伝え、保育士に共感してもらう。</li> <li>・言葉を使って、自分の欲求を伝えようとする。</li> </ul>
保	表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見たり、好きな玩具や遊具、自然物に自分から関わり十分に遊ぶ。</li> <li>・自分の要求を言葉やしぐさで伝え、保育士に共感してもらう。</li> <li>・言葉を使って、自分の欲求を伝えようとする。</li> </ul>
	現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水、砂、土、粘土等、様々な素材にふれたり、なぐり描きを十分に楽しむ。</li> </ul>
保育の実施上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症に罹りやすいため、日常の観察を十分に行い、変化が見られた時には、適切に対応をする。</li> <li>・一人一人の子どもの心身の発育・発達の状態を的確に把握し、担当制をとって育児行為にあたる。</li> <li>・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りを清潔にすること等、生活に必要な基本的習慣については、一人一人の状態に応じて、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重する。</li> <li>・行動範囲が広がっていき、予測できない行動やけんかも多くなるので、環境や活動の状態、子ども相互の関わり等に十分な注意を払っていく。</li> <li>・一人一人の子どもの気持ちを理解し、受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表わすことができるようにする。</li> </ul>

2 歳児

発達の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行機能が進み、走る、跳ぶ等の基本的運動機能や指先の機能が発達する。</li> <li>・自分でやろうとする気持ちが育っていく中で、出来なかつたり、受け入れられなかつたりする事から、癇癪をおこしたり、反抗して自己を主張しようとする。</li> <li>・語彙も増加するとともに、象徴機能や観察力も増し、自分の意思を伝える力が豊かになり、保育士と一緒に簡単なごっこ遊びが出来るようになる。</li> </ul>
ね	<p>養</p> <p>《生命の保持》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもが快適に健康で安全に過ごせるようにし、生理的欲求が十分に満たされ、健康増進を図る。</li> <li>・楽しい雰囲気の中で食事をし、食べることへの興味を持ち食べる楽しさを味わう。</li> </ul> <p>《情緒の安定》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもが、自分の要求や欲求を安心して表わすことができ、安定した生活を送れるようにする。</li> </ul> <p>護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動機能や指先の機能が発達し、探索活動が盛んになり、安全な環境でそれらを楽しめる。</li> </ul>
	<p>教</p> <p>《心 情》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人に親しみ、関わりを深め、愛情や信頼関係を築く。</li> <li>・基本的な運動機能や指先の機能が発達し、体を使った遊びを楽しむ。</li> </ul> <p>《意 欲》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄等の簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。</li> <li>・身の周りの物や親しみの持てる小動物等を見たり、触れたり、保育士の話の聞いたりして、興味関心を広げる。</li> </ul> <p>《態 度》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や遊びの中で、様々な出来事にふれ、イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</li> <li>・保育士等に見守られながら、自分でできることは自分でしようとする。</li> </ul>
い	<p>育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士等や友だちとふれあい、安定感を持って生活をし、簡単な身の回りのことを自分でする。</li> <li>・スプーン・フォークを使い、楽しい雰囲気の中で食事をしようとする。</li> <li>・リズムあそびの内容を取り入れた全身を使う遊びや指先を使った遊びを楽しむ。</li> </ul>
	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友だちに関心を持ち、親しみを持って関わろうとする。</li> <li>・身の周りに様々な人がいることを知り、友だちと関わって遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えようとする。</li> <li>・保育士の仲立ちによって、玩具の貸し借りをしたり、順番を待って交代できる。</li> </ul>
経	<p>人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内や畑、散歩先で動植物と触れ合うことで、それらに興味関心を持ち、探索などをして遊ぶ。</li> <li>・安心できる人的環境、物的環境の下で、聞く、見る、触れるなどの五感の働きを豊かにする。</li> <li>・自然等の身近な事象に関心を持ち、遊びや生活に取り入れようとする。</li> </ul>
	<p>環</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士と一緒に簡単なごっこ遊びをする中で、言葉のやりとりを楽しむ。</li> <li>・経験したこと等を自分なりに言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</li> <li>・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わったり、言葉を豊かにする。</li> </ul>
内	<p>言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士と一緒にリズムに合わせて体を動かしたり、わらべうたを楽しむ。</li> <li>・イメージを膨らませて、玩具や抽象的な物を実物に見立てることができる。</li> <li>・水、砂、土、紙、粘土等、様々な素材でイメージをひろげて遊ぶ。</li> <li>・興味のあることや経験したことを、保育士とともに、自分なりの方法で自由に表現していく。</li> </ul>
	<p>表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生的に安全な環境をつくり、快適な生活が出来るように、日々の視診を大切にしていく。</li> <li>・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、情緒の安定を図れるように、日々の活動を考慮する。</li> <li>・保育士と一緒に畑で野菜を収穫するなど、幼児クラスへ向け、食農活動に期待が持てるようにする。</li> <li>・食べ物に興味を持てるように、食材のことや調理してくれた人のこと等、子どもとの会話でわかりやすく話題としていく。</li> <li>・苦手な物が食べられたり、こぼさずに食べられたりした時は、しっかりと認めてあげることで自信につなげていく。</li> <li>・いきものと触れ合う際は、安全や衛生面に気をつけ、保育士が親しみを持って関わり、子どもたちも親しみを持って関わることができるようにする。</li> <li>・子ども同士のぶつかり合いが多くなるので、お互いの気持ちを受け止めていき、子どもたちにわかりやすく仲立ちをして、根気良く他児との関わり方を知らせていく。</li> <li>・ゆったりとした時間の中で、対人関係を大切にしながら、わらべうたを行っていく。</li> <li>・一人ひとりの子どもの心身の発育、発達の状態を的確に把握し、緩やかな担当制、少人数制をとって育児行為にあたる。</li> </ul>
容	<p>現</p>
保育の実施上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生的に安全な環境をつくり、快適な生活が出来るように、日々の視診を大切にしていく。</li> <li>・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、情緒の安定を図れるように、日々の活動を考慮する。</li> <li>・保育士と一緒に畑で野菜を収穫するなど、幼児クラスへ向け、食農活動に期待が持てるようにする。</li> <li>・食べ物に興味を持てるように、食材のことや調理してくれた人のこと等、子どもとの会話でわかりやすく話題としていく。</li> <li>・苦手な物が食べられたり、こぼさずに食べられたりした時は、しっかりと認めてあげることで自信につなげていく。</li> <li>・いきものと触れ合う際は、安全や衛生面に気をつけ、保育士が親しみを持って関わり、子どもたちも親しみを持って関わることができるようにする。</li> <li>・子ども同士のぶつかり合いが多くなるので、お互いの気持ちを受け止めていき、子どもたちにわかりやすく仲立ちをして、根気良く他児との関わり方を知らせていく。</li> <li>・ゆったりとした時間の中で、対人関係を大切にしながら、わらべうたを行っていく。</li> <li>・一人ひとりの子どもの心身の発育、発達の状態を的確に把握し、緩やかな担当制、少人数制をとって育児行為にあたる。</li> </ul>

3歳児	
発達の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の流れが、保育士の助けを借りながら、自分なりに身の回りのことが出来るようになる。</li> <li>・基礎的な運動能力が一応に育ってくる。</li> <li>・言葉を使った表現が豊かになり、「なぜ?」「どうして?」などの質問が盛んになり、物の名称や機能など理解しようとする知識欲が強くなる。</li> <li>・自分のイメージを言葉、動作、造形活動などで表現しようとする。</li> </ul>
ね	養 <ul style="list-style-type: none"> <li>《生命の保持》</li> <li>・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持を図る。</li> <li>・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の身の回りの生活に必要な基本的習慣が身につくようになる。</li> <li>《情緒の安定》</li> <li>・外遊びや散歩など、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。</li> </ul>
	護
ら	教 <ul style="list-style-type: none"> <li>《心 情》</li> <li>・生活に必要な言葉がある程度分かり、したい事、してほしい事を言葉で表わす。</li> <li>《意 欲》</li> <li>・保育士に見守られながら、身の回りのことが出来るようになる。</li> <li>《態 度》</li> <li>・保育士や友だちとのつながりを広げ、集団で活動する事を楽しむ。</li> </ul>
	育
経	健 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、排泄、睡眠などの生理的欲求が、一人ひとり決まった場所や見通しを持った生活の流れの中で適切に満たされ、快適な生活や遊びをする。</li> <li>・食農活動を通して、食べ物や身体の事に関心を持つ。</li> </ul>
	康
験	人間関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうたを通して、保育士や友だちと豊かな感情と信頼関係を築いていく。</li> <li>・園の行事に楽しく参加できる。</li> <li>・遊具や用具を貸したり借りたり、順番を待ったり交代する。</li> <li>・年上の子どもと遊んだり、地域の人とふれあったりすることを喜ぶ。</li> </ul>
	環
内	言葉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で思ったことや感じた事を言葉で表現し、保育士や、友だちと言葉のやりとりを楽しむ。</li> <li>・絵本や物語の内容がわかり、イメージを持って楽しく聞く。</li> <li>・ごっこ遊びの中で、日常生活での言葉を楽しんで使う。</li> </ul>
	表
容	現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気持ちを受け入れ、常に愛情を持って関わり、保育士と一緒にいることで安心できるような関係を築く。</li> <li>・基本的な生活習慣が身に付くように、自分でしようとする気持ちを大切にしながら、必要に応じて援助していく。</li> <li>・身近な様々な環境に興味を示すので、その興味や探究意欲などを、十分満足できるように環境を整える。安全面には留意する。</li> <li>・友だちとの関係や、動植物とのふれあいや飼育栽培を通して、相手の気持ちに気付き、思いやりの心が育つように配慮する。</li> </ul>
保育の実施上の配慮	

4 歳児	
発達の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣がほぼ自立し、見通しを持った生活が出来る。</li> <li>・ 全身のバランスをとる能力が発達し、体の動きが巧みになる。</li> <li>・ 感じたり想像した事からイメージをしたことを、目的を持って、言葉、動作、造形活動等で表現する。</li> <li>・ 生活経験を通して、友だちや身近な人の気持ちを考えたり、認め合ったり出来る。</li> <li>・ 競争やぶつかり合いも経験しながら、仲間といることの喜びや楽しさを互いに感じられるようになる。</li> </ul>
ね ら	養 護 <ul style="list-style-type: none"> <li>《生命の保持》</li> <li>・ 一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持を図る。</li> <li>《情緒の安定》</li> <li>・ 友だちとのつながりを広げ、集団の中で自分の力を発揮する事を楽しむ。</li> </ul>
	教 育 <ul style="list-style-type: none"> <li>《心 情》</li> <li>・ 食農活動を通して、いたわりや愛情の気持ちを育む。</li> <li>・ 身近な自然現象、社会事象に興味関心を持ち、見たり、聞いたり、触れたりしながら感性を豊かにする。</li> <li>《意 欲》</li> <li>・ 自信を持って意欲的に生活しようとする。</li> <li>《態 度》</li> <li>・ 日常生活に必要な習慣や態度が身に付き、自分で出来る事が広がる。</li> </ul>
経 験 内 容	健 康 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活全般において、見通しを持って、流れを意識して行動する。</li> <li>・ 食農活動を通して、食べ物と体の関係に興味を持つ。</li> <li>・ リズムあそびに意欲的に参加し、様々な動きを組み合わせ、身体を動かす事を楽しむ。</li> <li>・ 自分の体や健康に関心を持ち、健康に過ごすことの大切さに気付く。</li> </ul>
	人 間 関 係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園の行事や地域の伝統行事に興味関心を持ち、行事を通して、地域や身近な人との交流を深める。</li> <li>・ 年下の子に親しみを持ったり、年上の子とも積極的に遊んだりする。</li> <li>・ 友だちと生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。</li> <li>・ 食農活動では、異年齢児と関わりを深め、協力することの大切さを知っていく。</li> </ul>
	環 境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭や散歩先の地域の自然の移り変わりに親しみをもち、興味関心を深める。</li> <li>・ いき物の飼育を通し、関心を深め、親しみや愛情を持つ。</li> <li>・ 自分の物と人の物、共同の物との区別に気づき、大切にしようとする。</li> <li>・ 具体的な物を通し、数や量などに関心を持ち、簡単な数の範囲で数えたり比べたりすることを楽しむ。</li> <li>・ 身の周りの物の色、形などに興味を持ち、分けたり、集めたりする。</li> </ul>
	言 葉 表 現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分で考えた事、経験した事を言葉で表現し様々な機会や場で活発に話したり、保育士や友だちの話を傾ける。</li> <li>・ 身の周りの出来事に関する話に興味を持つ。</li> <li>・ 絵本や童話を読み聞かせてもらい、イメージを広げる。</li> <li>・ 様々な生活経験をごっこ遊びの中に取り入れ、異年齢で楽しく遊ぶ。</li> <li>・ 友だちと一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、体を動かして楽しむ。</li> <li>・ 感じたこと、思ったことや想像したことなどを様々な素材や用具を使って、自由に描いたり、作ったり様々に、表現して遊ぶ。</li> </ul>
保育の実施上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの気持ちを受け入れ、個人差に配慮しながら、子どもが安定した生活が出来るようにする。</li> <li>・ 基本的生活習慣が、日々の直接的な体験の中で身に付くようにする。</li> <li>・ 一人ひとりの子どもの気持ちや行動を受け止め、いろいろな場面での遊びや関わり方を援助し、いきいきと活動できるように配慮する。</li> <li>・ 友だちとのぶつかり合いを経験しながら、相手の気持ちを理解し、相手を思いやる事で、楽しく遊べる事に気付くようにする。</li> <li>・ 園外へ積極的に出かけ、地域の人たちの仕事や生活に関心が持てるようにしたり、自然現象や社会事象の感動体験の機会が多く持てるようにする。</li> <li>・ いきものの飼育や作物の栽培を通し、それらに興味関心を持ち、大切に育てる気持ちが育まれるようにする。</li> <li>・ 子どものイメージが湧き出るような環境を整え、のびのびと表現して遊ぶ事が出来るようにする。</li> </ul>

5 歳児

発達の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣が身に付き、生活態度が主体的になる。</li> <li>・一定の見通しを持って、それに基づいて最後までやり遂げる。</li> <li>・自分なりの予測や見通しをたてる力が育ち、自身を持って、心身ともに意欲的に物事に取り組む。</li> <li>・仲間意識が強くなり、一つの目的に向かって、きまりを守り、協力し合い、集団活動をする。</li> <li>・相手の思いを受け入れたり、我慢したり出来るようになり、いたわりや思いやりの気持ちが育ち、人の役に立つことを嬉しく誇らしく感じられる。</li> </ul>
ね ら い	養 護 《生命の保持》 ・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主強調の態度を身に付け、理解して行動する。 《情緒の安定》 ・人の話を聞くことや自分の経験した事、考えた事などを、相手に伝え合う事を楽しむ。
	教 《心 情》 ・身近な事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さなどに対する感覚を豊かにする。 《意 欲》 ・身近な環境や自然などに自ら関わり、様々な事象と自分達の生活との関係に気付き、それらを生活 や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。 《態 度》 ・進んで異年齢の子ども達と関わり、生活や遊びなどで役割分担したりしながら、活動を楽しむ。
	育 ・進んで異年齢の子ども達と関わり、生活や遊びなどで役割分担したりしながら、活動を楽しむ。
経 験 内 容	健 康 ・生活全般の見通しを持ち、進んで行動する。 ・食農活動を通し、食べ物と体の関係に関心を持つ。 ・リズムあそびに積極的に参加し、話を良く聞いて、やや複雑な運動にも挑戦し、楽しんだりする。 ・危険な場所や災害時などの行動の仕方がわかる。
	人 間 関 係 ・園の行事や地域の方とのふれあいを通し、自分なりの役割を果たした充実感や、人に喜ばれる事を嬉しく感じられる。 ・お泊り保育を通し、あきらめずに友だちと協力して、一つの事をやり遂げる。 ・異年齢の子ども達に、自ら進んで声をかけて誘ったり、いたわりながら進められる。 ・季節の行事や日本の伝統文化を知り、自分で出来る事に喜びを感じながら、意欲的に取り組み、生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 ・友だちへの親しみや思いやりを深め、一緒に喜んだり悲しんだりできる。 ・自己主張もするが、相手の意見も受け入れ、共同の遊具や用具を譲り合い使うなど、協働の気持ちが育つ。
	環 境 ・園庭や散歩先での地域の自然に親しみ、その変化、大きさ、不思議さ、美しさなどに興味を持つ。 ・いきものの飼育を通し、いのちの尊さや摂理を感じられる。 ・身近な物を大切に扱い、自分の持ち物を整頓する。 ・簡単な数の範囲で数えたり、比べたり、順番を待ったりする。生活の中で、前後左右、遠近等の違いや時刻、時間に興味を持つ。
	言 葉 ・自分の経験した事、考えた事などを言葉で表現する。また、人の話を聞いたり、絵本・物語に親しみ、その面白さが分かり、創造して楽しんだり、身近な文字に触れることで言葉への興味を広げ、簡単な文字や記号などにも関心を持つ。 ・身近な事物や事象について話したり、名前や日常生活に必要な言葉を使ったりする。
	表 現 ・様々な体験や想像を生かし、それらを取り入れ、ごっこ遊びを広げていく。 ・音楽に親しみ、みんなと一緒に聴いたり、歌ったり、踊ったり、楽器を使って、音色やリズムを楽しむ。 ・様々な素材や用具で描いたり、作ったりを工夫し楽しむ。身近な生活や遊びに使う簡単なものを作り楽しむ。 ・友だちと一緒に描いたり、作ったりすることや身の回りを美しく飾ることを楽しむ。
	保 育 の 実 施 上 の 配 慮 ・子どもの気持ちを受け入れ、個人差に配慮して、子どもが安定して生活できるようにする。 ・基本的習慣や態度が身に付き、自分を大事にし、主体的に活動できるように配慮する。 ・様々な存在に気付き、人の役に立つ事の喜びを感じる事が出来るように援助する。 ・身近にいる様々な人と交流し、共感あう体験を通して、人と関わることの楽しさや大切さを味わう事が出来るようにする。 ・動植物とのふれあいや作物の栽培などを通して、自分達の生活との関わりに気付き、感謝の気持ちや生命を尊重する心が育つようにする。 ・素材を豊富に用意し、イメージが湧く環境を整え、想像性が豊かになるように配慮し、表現活動を楽しませる。 ・子ども自身が自分の伝えたい事をしっかりと相手に話し、伝えられたという喜びを味わうために、人前で話す機会や場面を出来るだけ多く用意する。



3・4・5歳児異年齢保育

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健的で安全な環境を構成し、一人ひとりの欲求を十分に満たしながら、保育者との信頼関係の中で快適に生活できるようにする。</li> <li>・異年齢の子ども達がそれぞれの違いに気付き、こだわりや憧れの気持ちを理解しながら心を通い合わせることを喜ぶ。</li> <li>・異年齢の関わりを通して、友達を理解すると同時に自己を主張し、自律していく。</li> <li>・異年齢同士の役割を遊びを通して理解し、協力しながら遊びを発展させる。</li> </ul>
ね ら	養 《生命の保持》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任だけでなく、その他の職員にも気軽に接する事が出来るようにする。</li> </ul> 《情緒の安定》 護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢混合クラスにする事で子ども同士の中で信頼関係が作られる。</li> </ul>
	教 《心 情》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年少児が年上の（年中・年少児）に憧れを持つ。</li> </ul> 《意 欲》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長（年中）児が、年下の面倒を見たり、すすんで関わられるように促していく。</li> </ul> 《態 度》 い 育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児になると自分がしてもらったように年少児と関わりが持てるようにする。</li> </ul>
経 験 内 容	健 康 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の仕方がわかり、落ち着いて生活をする。</li> </ul>
	人 間 関 係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢のクラスの中で、保育者に見守られながら、気の合う友だちと遊びを楽しむ。</li> <li>・同年齢、異年齢の友だちとの関わりの中で、遊びやルールや役割を決めて、遊びを発展させていく。</li> </ul>
	環 境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の変化を感じながら、様々な草花や小動物と触れ合うことを楽しむ。</li> <li>・作物の成長に興味を持って、食農活動に取り組む。</li> </ul>
	言 葉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと生活をする中で、自分の思いや気持ちを言葉で伝える。</li> </ul>
	表 現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージしたことを友だちと一緒にいろいろな方法で、豊かに表現したり、創造したりして楽しむ。</li> </ul>
保 育 の 実 施 上 の 配 慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラス、異年齢の集団で過ごす時には、子ども達の生活面（基本的な生活習慣が身に付いているか）を重視しゆったりと過ごせるよう配慮する。</li> <li>・年齢別で活動する時には、保育内容についての専門的な知識を高め（保育の質を向上させ）、メリハリのある保育を心がける。</li> <li>・他クラスの子ども達や保護者にも声を掛け、一人ひとりの子どもの行動を観察して、保育士間や保護者に対して、客観的な報告をするように心がける。</li> <li>・原則 3 年間、クラスは固定とし、安定した環境を整えていく。また兄弟姉妹に関しても、同じクラスで生活する機会を増やしていく。</li> </ul>

# 市川南保育園の主な事業

## 産休明け保育の実施

子どもの心身の機能の未熟性を理解し、家庭との連携を密にしながら、保健・安全に配慮し、個人差に応じて欲求を満たし、生活リズムの形成を援助していく。特定の保育士の愛情深い関わりが、基本的な信頼関係の形成に重要であることを深く認識し、担当制も含めて、職員の協力体制を工夫して保育を行なう。

## 延長保育の実施

保育標準時間利用の場合は、11 時間を超える 18 時から 20 時まで延長保育を実施する。朝夕の時間帯、乳幼児が安定した生活ができるように様々な工夫や配慮をし、家庭的な雰囲気を大切にしながら保育を行っていく。

## 体調不良型の病児保育

園児を対象に保育中に体調不良になった児童を保護者が迎えに来るまでの間、適切な看護をしながら保育を行っていく。

## 病後児保育

保護者が仕事や家庭の都合で子どもの看病ができない場合、病気回復期の児童を保育する。  
生後 6 か月から小学校 3 年生までの病後児を対象に 9 時から 17 時まで保育する。

## 特別なケアの必要な子の保育

個々の子どもの発達や障がいの状況を把握し、生活リズムや心身の状態に十分に配慮をし、適切な環境のもとで、他の子どもとの生活を通して互いに健全な発達が図られるように努める。個々の子どもの状況に柔軟に対応していくために職員の共通理解が深まるように配慮し、職員配置など丁寧に考え実践していく。

## 保護者との連携

- ・保育者と保護者とが同一の立場に立ち、相互に補完しながら、保護者と共に歩んでいくことを基本と考えます。
- ・父母の会と交流
- ・園児及び保護者と保育園のコミュニケーションの活性化を目指して、「意見・要望・苦情・不満（以下「要望等」とする）を解決のための仕組みに関する規程」を設け、保護者の要望等に的確に応え、よりよい保育園づくりを進めていきます。

### 家庭との連携・連絡

入園・進級説明会 3月下旬

保育への理解と協力を促進、保護者同士のつながりを深めることを目的に、保育の方針やねらい、行事などの説明及び各クラスごとに「1 年間の保育の流れや大切にしていきたいこと」について担任保育者から説明を行います。

### クラス懇談会

各クラスごとの懇談会を実施します。クラス全体、個々の子どもたちの様子について担任保育者が報告をするとともに、育児や育児を取り巻く様々な事柄について話すことで、保護者同士の横のつながりも広がっていきなします。

### 個人面談 随時

子どもの成長や発達に関する日常的な相談を行い、保護者の悩みや心理的負担の軽減、育児に前向きに取り組めるように配慮していきます。虐待やより深刻な問題については慎重に対応し、必要に応じて専門機関の相談につなげるなどしていきます。

## 広報

クラスだより（毎月1回）：子どもたちの園生活の様子、クラスの取り組み等について詳細に伝えていきます。

園だより（毎月1回）：行事等も含めた園全体の様子、季節ごとの保育情報、歌や遊びの紹介などを中心に情報を提供し、園への親しみを深めて貰えるようにします。

## 家庭・医療機関との連携

保健・給食だより（年12回）：月ごとに情報を提供します。

## 連絡帳

家庭及び園での子どもの様子について、保護者、保育者がそれぞれ記入し毎日やりとりをします。直接口頭での連絡と合わせて、実際の子どもの観察と合わせ、子どもの様子について適確に把握し対応ながら、保護者とのコミュニケーションを深めます。

## 小学校との連携

小学校の連携をより深めてき、保育の連続性を大切にしていく。

- ・運動会の見学、年長児の学校訪問、小学校交流会の参加
- ・小学生職場体験受入れ
- ・保育所保育児童要録を小学校へ送付

## 在宅家庭支援の実施

### 育児相談事業の実施

保育園が地域の子育て支援としての育児相談ができるよう努めてく。

内 容 育児、健康、栄養、発達相談、入園案内等  
具体的方法 電話相談、来園相談

## 地域活動事業の実施

地域に開かれた保育に取り組んでいきます。

地域の行事への参加・協力地域のために働くことを大切にしていく。

近隣の社会福祉施設等との交流を通して理解を深め、保育内容の充実を図っていきます。

- ・保育見学
- ・小中高大学生ボランティアの受け入れ
- ・実習生の受け入れ  
実習生だけではなく保育者も学び、保育を考える良い機会になっています。
- ・地域交流

## 高齢者ふれあい事業

地域にある、高齢者施設への訪問を通して、世代間交流をし思いやりの心を育む。

運動会に招待したり、敬老の日には敬老者を招きほのぼの会を開催します。

## ・保健衛生

### 子どもの健康

保育園に関わる全ての子どもが、心身共に健やかに育つように、また安心して生活ができるような環境づくりをします。その中で個々の子どもの発育や発達状況を細かくとらえその子の発育や発達に応じた適切な働きかけをします。さらに地域の子どもの様子等も知りながら、地域社会と協力して子育てをしていくことを目指します。安全指導と安全管理の2つの柱を大切に、安全保育を目指します。

### 基本的な保健目標

乳幼児の生命の安全の確保

個々の子どもの健康を維持・増進させる

健康なからだづくりのために、保育内容をみんなで検討しながらすすめる。

### 具体的な業務内容

日頃の保育の中で発育、発達を促進させる。

健康状態の観察をする。視診を大切にしていく。一日数回子どもの様子を診ていく。特に朝は各クラスを回って、子どもの様子や家庭からの連絡帳などを見て健康状態を把握する。また保育の様子を見たり保育者からも様子を伝えてもらい、その事柄を必ず園長・主任等の上司に 随時報告し指示を仰ぐ。クラス担任、栄養士にも報告する。

#### 《健康観察の考え方》

意 義：子どもが日々快適に過ごす

一人一人の子どもを日常的に的確に把握する

目 的：早期発見と予防

伝染病の発生や流行を防ぐ

健康な生活習慣の自立をはかる

### 定期健康診断

(内科) 産明けクラス 月1回

0～5歳児クラス 年2回

(歯科) 0歳児クラス～5歳児クラス 年2回

\*看護師による歯磨き指導(2～5歳児 年1回)

(身体測定) 0歳児クラス 月1回 1、2歳児クラス 隔月 2、3、4歳児 年3回

(尿検査) 3、4、5歳児→年1回 (蛭虫検査) →全クラス(年1回)

### 保育の環境

各保育室の温度や湿度など保育士と確認しあい適切に整えていく。また、看護師と共に保育上での環境を清潔で安全に保てるようにする。

乳幼児突然死症候群の予防に努めるよう指導していく。

### 保護者との連携

\*毎月保健だよりを発行する

\*懇談会に出席して「子どもの健康」について話し合う

\*個々の健康状態を知らせる

\*予防接種の指導の確認をする

### 虐待への対応

市川市児童相談所と連携していきます。

保育者には、常に児童虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、児童虐待の早期発見に努めなければならないことを周知徹底させ、発見した者は速やかに主任、園長に報告し園全体として対応を検討していくとともに、子育て支援センター及び児童相談所にも協力を依頼し、情報交換を行いながら、援助を行っていきます。

## 体調不良児への対応

体調不良型の病児保育を実施し、園児が保育中に体調不良になり保護者がお迎えに来るまでの間、適切に看護していく。必要に応じて嘱託医に相談や受診を行う。

## 病後児保育（ひまわり）

病後児保育を実施し、園児や地域の児童が病気の回復期であり、かつ集団保育が困難な期間において専用スペースで一時的に保育する。

受け入れ時間 9時～17時

定員 3名まで

## 職員の健康管理

- ・ 職員の健康維持、増進をはかり、病気の予防、早期発見、治療につとめる。
- ・ 定期的に健康診断を実施する。
- ・ 健康の保持については各個人の自覚が大切であるがそれとともに適切なアドバイスをしていく。

## （健康診断）

内容：身長、体重、視力、聴力、血圧、尿検査、胸部 X 線検査、血液（肝機能・貧血）  
職業病（腰痛症、頸腕症）の早期発見、予防観点から体力検査など必要に応じて行う  
生活習慣病：35歳以上職員及び節目検診者を対象に行う

## （細菌検査）

食品衛生管理者（調理員 乳児保育者）及び管理職 看護師を対象に行う（月1回）  
内容：赤痢菌、腸チフス菌、パラチフス菌、サルモネラ菌、病原性大腸菌 O-157

# 給食

## 給食方針

数多くの食品、調理法に慣れ、味覚形成と偏食防止をする。

食品の持ち味を大切にし、塩味、甘味を控え薄味にする。（成人病予備群を作らない）

種々の食品をバランス良く（量と質、主食、副食、汁物）食べる。

食べる意欲や心を育てる環境や雰囲気を作る。

適温給食を心掛ける。

食事のマナーを覚えていく様、指導する。

アレルギー児や肥満児また障害児に対して、食事指導や相談、配慮をし、保育園でできる限り最大限の個別的ケアをする。

## 献立内容

食材は安全な材料を使用します。

国産の食品を使用し、東日本大震災以降は産地を公開しています。

## 年間給食指導計画

- ・ 保育所における食育に関する指針に基づき、毎月、食育実施計画表を作成し、「目標・テーマ・ねらい」を定め、実施後に評価・反省を行い、より良いものにしていく。

## 給食会議

各クラスの喫食状況表をもとに園長、副園長、主任、副主任、栄養士、調理員、各クラスとで問題点を出し合い毎月検討していく。

## アレルギー、その他個別対応

アレルギー児に対しては診断書を持参してもらい対応基準に沿って、親と充分話し合い協力しあいながら対応していく。その他、肥満に関してや、障害がある子への個別の対応もできる範囲で行っていく。

### 離乳食

個々の成長に合わせて提供していきます。

0歳児のお子さんには離乳準備期から離乳前期、中期、後期に分けて子どもさんの発達段階に合わせて調理します。

### その他

- ① 衛生面に注意し、手洗い励行、まな板、包丁の消毒、器具や厨房内を清潔に留意します。
- ② アレルギー児に対しては診断書を持参してもらい対応基準に沿って、親と充分話し合い協力しあいながら対応していきます。
- ③ その日の給食の様子や今日の給食のポイントを給食伝言板として掲示する。
- ④ 必要に応じて懇談会に調理からも出席していきます。
- ⑤ 食事に関するアンケートの実施します。
- ⑥ 保護者会に、子どもたちと一緒に給食を試食してもらう。
- ⑦ 調理場内の設備の効率化をはかります。

## 安全管理

### 防犯について

#### 園内での対応

近年、地域に開かれた保育所は保育参加や園庭開放など様々な形で、外部の人たちと交流を持っている。そうした活動はこれからも発展させなければならないが、そんななか不審者の侵入には十分注意が必要である。不審者を見かけたときには、事務所に確認したり、必ず声をかけたり習慣をつけなくてはなりません。

#### 声のかけ方

こんにちは、事務所に声を掛けられましたか？たいへん申し訳ございませんが事務所で受付をしておりますのでお願いいたします。

ご用件はなんのでしょうか？

不審者を発見した場合は、子どもが動揺しないようにあらかじめ合言葉を決めておく。

例：大声や放送で「所長がきました！所長がきました！ご連絡いたします。」園には園長しかいないので所長→不審者ということで訓練をしている。

それを聞いた職員は直ちに非常体制をとり、警察に連絡、園児を避難させる。

#### 園外での対応

散歩は子どもたちの生活に欠かせない日課の一つです。保育園児にとって散歩は体力づくりの為だけではなく、社会性を発達させるために必要です。そこではたくさんの地域の人に出会い、地域を知ることになるのです。小学校に入学すると子どもたちは自分ひとりの力で小学校に登校します。地域にどういう人が住んでいるのか、交通ルール、地域の様々な危険箇所も知っておくことが必要です。危険だからと散歩もせずに園の中に閉じ込めておくことのほうがかえって危険なのです。

しかし散歩には保育士たちが細心の注意を払うことが大切です。まず、各クラスがどこに散歩に行くのか、必ず園長に報告しなくてはなりません。その際事務所に備えられている、園外保育申請書を記入し、口頭でも伝えます。園外保育申請書は、日付、クラス名、目的地、子どもの人数、大人の人数、出発時間、帰園予定時間を記入します。そして携帯電話は忘れずに持っています。

## 警備保障会社

警備をセットすれば園内に設置されたセンサーが作動し、ガードマンが駆けつけるシステムです。これは閉園後、深夜などに不審者が侵入することを防止するシステムです。

警備会社と年間契約をします。

## 防犯グッズ（さつまた、ホイッスル）

### 防犯訓練の実際

毎月の防災訓練以外に、侵入者を想定した防犯訓練を行います。注意しなくてはならないことは、子どもに恐怖を与えないことに配慮します。

### <2017年度防犯安全係事業計画>

#### 1. ねらい

- ① 時間内・時間外共にマニュアルを元にした通報・避難の仕方を身につける
- ② 不審者への対応の仕方を学ぶ（職員向け）
- ③ 各クラスの不審者対策用品の点検をし、補充と使用の仕方を再確認していく

#### 2. 内容

- ① 毎月一回の不審者訓練を行う
- ② 安全教室を行う…職員：7月中旬頃、警察の方：3月終わり頃
- ③ 警察の方に来ていただき護身術を学ぶ（職員向け）
- ④ 非常ベルは必ず鳴らし、放送を流す際は暗号文を使用する（暗号：所長）
- ⑤ 予告なしの訓練も取り入れてみる
- ⑥ 突然保護者以外の方がお迎えに来た時の対応の仕方を学ぶ

## 事故防止・安全対策

### ① 安全教育

知識、技能、安全に行動する態度、習慣の育成を日常の保育の中で計画的に行います。

年齢や発達段階に応じて判断力や体力、安全に必要な敏捷性、瞬発力、調整力などを養うために積極的に活動できるような遊び方、生活の仕方を工夫し、日常の保育の中で取り組んでいきます。年間の時節をとらえ、健康教育も行います。

### ② 安全管理

子どもが安全、活発に行動できるように、保育者は十分に配慮します。危険を判断する力、事故を避ける身の処し方など、各年齢の発達段階に応じた対応をしていきます。

事故の防止や災害時の安全な行動のため、保育者の指導性を高め、「子どもを見る目」を養い、日々の安全に十分に配慮できるようにします。

### ③ 事故防止

(ア) 言葉でうったえることのできない子どもの意思や表現を大切に、子どもの立場にたって身の回りの物や配置などに配慮します。

(イ) 保護者（家庭）と園と常に連携し、子どものからだの状態や怪我など、少しの変化でも連絡しておくことにより適切な対応がとれるようにし、事故をふせぎます。

(ウ) 保育者は常に気持ちに余裕を持ち、適確に集団全体の動きを把握し、危険な状況に俊敏に対応できるようにします。

(エ) 保護者（家庭）との信頼関係をつくり、日常の怪我や事故の応急処置の仕方、連絡体制を確認しておきます。

(オ) すべての事故の原因の追求と反省をし、対応の必要性、物的条件、環境などを、それぞれの立場から常に点検し、安全を図る努力をしていきます。

(カ) 日常的に個人の行動や健康をチェックし、常時記録していきます。

## 安全点検係

- ・ 毎月一回、園内の点検を行う
- ・ 破損したものや危険なところの修理を行う
- ・ 保護者や職員に向けてアンケートをとり、きめ細かく危険な箇所の把握をし、改善を行っていく
- ・ 家庭においても、子どもたちがより安全で健康に過ごせるように援助していく

- ・園内で子どもたち向けの安全教室を行い、危険箇所の確認や危険な行動の防止に努める

## 職員研修

### ① 園内研修

子どものよりよい発達と保育内容向上のため、身近な保育をテーマに疎って、全体で学習会を実施する。(リズムあそび、担当制保育、食育など) 職員の共通理解を深めていく。

### ② 園外研修会

- ・市川市所管企画の研修会への参加
- ・市川市民間児童福祉施設協議会企画の研修会への参加
- ・ユーカーリ福祉会各部会
- ・運動会、リズムあそび研修会
- ・劇あそび、表現遊び研修会
- ・食育研修会
- ・給食施設衛生研修会
- ・救命救急講習会 等

## 防災

防火管理者は、地域と連携して日常の防火管理を行います。  
消防計画に基づき防火管理責任組織をつくり防火体制を整えます。  
消防計画に基づき自衛消防隊を組織し防災体制を整えます。

### 自衛消防訓練

避難・防災訓練 月1回(防災、その他を含む) 総合訓練 年2回(5月、9月)

### 災害対策

#### 非常持出品

児童名簿・職員名簿・保健カード・関係諸機関連絡先等の重要書類は、避難の時に速やかに持ち出せるようにしておきます。

携帯ラジオ・懐中電灯・救急セットなどもすぐに持ち出せるようにしておきます。

#### 非常備蓄品

災害時に備えて、最低1日分を確保します

【停電に備えて】 懐中電灯

【断水等に備えて】 飲料水

【園児の状況によるもの】 ミルク オムツ

【火災に備えて】 防災準備品 消火器、火災報知器

【災害伝言ダイヤル】

災害対策として『171:災害伝言ダイヤル』について保護者に伝え体験して頂く。

【非常食体験】 災害時を想定して非常食体験を行う。

災害時非常食

非常災害時を想定し、非常食を備蓄していきます。

#### 日常安全管理

☆転倒・落下防止のポイント

- ・転倒防止金具などで固定し、倒れにくくしておく。
- ・棚などは、重い物を下の方に収納し、重心を低くする。
- ・棚やタンスなどの高いところに危険な物を載せて置かない。



年間防災計画

平成29年度

月 時間	想 定	発生場所	避難場所	ね ら い	その他
4月 午前	火災	給食室	園庭	ベルの音を聞き、保育者の指示に従い避難する。	
5月 26日 午前	消防署届 地震・火災	給食室	園庭	ベルの音を聞き、保育者の指示に従い、慌てず静かに避難する。 消防署の方の話を聞いたり消火訓練をし、避難訓練の大切さを知る。	消火器訓練
6月 午前	火災	園西側民家	0歳児前 テラス	延長保育中、保育者の指示に従い、慌てず静かに避難する。	午前延長保育 中に避難訓練 有。
7月 午後	火災 地震 津波	園南側民家	2階 テラス	ベルの音を聞き、保育者の指示に従い、慌てず静かに2階テラスに避難する。屋上に上ることも想定し避難方法を確認する。	
8月 午前	火災	園北側民家	0歳児室前 廊下	ベルの音を聞き、保育者の指示に従い、慌てず静かに避難する。	午後延長保育 中に避難訓練 有。
9月 午前	地震 火災	給食室	園庭	ベルの音を聞き、保育者の指示に従い、慌てず静かに避難する。 消防署の方の話を聞いたり、消火器の使用をみる。	消火器訓練
10月 午後	火災	園西側民家	園庭	午睡時間中、保育者の指示に従い、慌てず静かに避難する。	午睡時間帯に 避難訓練
11月 午前	火災	調乳室	すずかけ 公園	保育者の指示に従い行動し、慌てず静かに第一避難場所まで非難する。	非常食体験
12月 予告せず 実施	火災	予告なし	園庭	ベルの音を聞き、保育者の指示に従い慌てず、静かに避難する。幼児は避難用すべりだいを使用し避難する。	日にち、時間を決めずに行う。
1月 予告せず 実施	火災 竜巻等突風	予告なし	予告なし	竜巻や突風の際の避難方法を知る。ベルの音を聞き保育者の指示に従い、慌てず静かに避難する。	方位確認。
2月 予告せず 実施	火災	給食室	園庭	ベルの音を聞き保育者の指示に従い行動し慌てず静かに避難する。	
3月 予告せず 実施	地震 火災	給食室	大洲小学校	ベルの音を聞き、保育者の指示に従い、慌てず、静かに第一避難場所まで避難する。	日時を決めずに行う。

# 職務・クラス編成

## 1) 園児編成

### ア. クラス編成

クラス名	年 齢	保育士数	園 児 数	備 考
もも	産明け	4	12名	
さくらんぼ	0歳			
いちご	1歳	4	20名	
りんご	2歳	5	24名	
れもん	3歳	2	27名	発達センター通所児童2名
すいか	4歳	2	27名	
ぶどう	5歳	2	27名	発達センター通所児童1名
合 計		19名	137名 (4/1 予定)	

## (2) 職員体制

園 長	1名	: 保育業務管理・運営管理・業務実施状況把握
主 任	1名	: 保育統括
副 主 任	2名	: 主任補佐
看 護 師	2名	: 保健担当責任者・衛生推進者
		: 病後児保育担当責任者
栄 養 士	1名	: 給食担当責任者
事 務 長	1名	: 事務担当責任者

### <クラス保育士>

産明け・0歳児保育士	4名
1歳児保育士	4名
2歳児保育士	5名
3歳児保育士	2名
4歳児保育士	2名
5歳児保育士	2名

### <給食調理>

栄養士 (責任者)	1名
栄養士	2名
調理師	1名

### <保健>

看護師	2名
嘱託医	内科 1名
嘱託医	歯科 1名

### <パート保育士・保育補助>

14名

### <パート調理員>

2名

## 行事・会議・研究会

月	行事内容
4月	入園進級を祝う会 保護者会 子どもの集い 地域交流
5月	おにぎり遠足 保育参加・個人面談 地域交流 消防訓練
6月	おみせやさんごっこ（夏のお楽しみ会） 地域交流 うめぼし作り プール開き
7月	七夕の集い 地域交流 お泊り保育
8月	地域交流 プール納め
9月	ほのぼの会（熟年者交流会） 地域交流
10月	運動会 3歳児園外保育 4歳児園外保育 5歳児園外保育 地域交流 ハロウィン 個人面談
11月	秋のお楽しみ会 地域交流
12月	保育参観（冬のおたのしみ会） クリスマス会 地域交流
1月	5歳児記念撮影 地域交流、新年の集い もちつき会
2月	節分の集い クラス懇談会 地域交流 味噌づくり
3月	ひなまつり会 卒園を祝う会 卒園式 入園面接 地域交流 おわかれ遠足

### 保育参観、個人面談

一年中、いつでも保護者が保育に参観・参加することが出来るようにします。  
また、個人面談も実施しております。

### 保育見学会

在園していなくても、お子さんと一緒に保育見学をすることが出来るようにします。  
保育園を知りたい。発達が気になる等、どんな理由でも気軽に保育を見学にすることができます。

### 地域交流（園庭開放）

地域の在宅母子の方に園庭を開放しています。その際にサロンを設け、育児の悩みや親同士の交流を行っています。

### 地域交流 平成29年度予定表

月	予定日	時間	内容	備考
4月	21日（金）	10時～11時半	園庭あそび	
5月	26日（金）	10時～11時半	離乳食講座（保護者のみ試食）	<持ち物> エプロン、タオル
6月	19日（金）	10時～11時半	小麦粉粘土、園児と触れ合い	
7月	7日（金）	10時～11時半	どろんこあそび ※雨天時：室内あそび、リズムあそびなど	★汚れてもよい服装
8月	1日（火）	10時半～11時半	水あそび	<持ち物>

	3日(木)		※雨天時：室内あそび、リズムあそびなど	水着、タオル、水分、着替え
9月	7日(木)	10時～11時半	絵の具あそび、発育測定	★汚れてもよい服装
10月	17日(火)	9時～自由解散	運動あそび	
11月	7日(火)	10時～11時半	園庭あそび、歯みがき指導	
12月	15日(金)	10時～11時半	クリスマス工作、リズムあそび	
1月	23日(火)	10時～11時半	よみきかせの会 園児とあそぼう会	
2月	23日(金)	10時～11時半	園庭あそび 給食の試食(子どもの試食)	<持ち物> エプロン、タオル
3月	2日(金)	10時～11時半	ひなまつりの会、発育測定	

### ボランティアの受け入れ

中高生や大学生のボランティアや地域の方々のボランティアを積極的に受け入れています。

### 実習生を受け入れについて

- ・実習生の麻疹の抗体検査など、保護者が不安にならないよう確認を行っています。
- ・実習ノートから実習生だけではなく保育者も学び、保育を考える良い機会になっています。

### 実施する行事・会議

○定例職員会議	月1回	○乳児会議	月1回	○幼児会議	月1回
○クラス会議	随時	○給食会議	月1回	○保健会議	月1回
○各種委員会	月1回	○避難訓練	毎月	○不審者訓練	毎月
○行事運営会議	随時	○学習会	随時		
○年間反省会	年1回				

### 委員会活動

#### 衛生管理委員会

衛生管理委員会を組織し、年に数回、子どもたちが理解しやすいように、衛生指導を行います。園内の環境を衛生的になるよう看護師、保育士が中心になって努めていきます。

#### 園庭・環境委員

園庭の環境整備(園庭、遊具、園庭の環境すべてについて整備を進め、備品の管理を適切に行っています。)

(子どもたちが片付ける意識など持てるように集会等で話しをしていきます。)

築山を作り遊びが展開できるようにしていきます。

#### <実施計画>

1. 毎月遊具の数、危険な場所が無いかチェックする。
2. 足りない遊具を購入する。
3. ヒヤリハットのアンケートに基づき、ヒヤリハットマップの作成。
4. 毎週月曜日、金曜日に石拾い、砂戻しの実施。

5. 年2～3回園庭集会を開く。
6. 害虫駆除の依頼や玩具洗いを適宜行う。
7. 年度末に木を植える。

#### 食農文化教育活動

様々な野菜や穀物を年齢ごとに系統立てて栽培し、収穫し食する経験を体験していくことで土から育てるという感覚を育て、生産と食の距離を近づけていく活動を大切にしていきます。また、様々な食品作りを通し、日本の食文化を子どもたちに伝えていきます。

#### 実施計画

- ・春、秋に野菜作りを実施する。
- ・四季の花をクラスごとに育てる。

以上

# 平面図

1 F

玄関	事務室		トイレ	階段	調理室		病後児保育室
産明けもも組	調乳室	沐浴室	0歳児 さくらんぼ組	1歳児 いちご組	トイレ	2歳児 りんご組	

2 F

遊戯室	倉庫	トイレ	階段	配膳室	トイレ	更衣室 休憩室		テラス
5歳児 ぶどう組	トイレ	3歳児 れもん組		4歳児 すいか組		トイレ		
テラス								